

令和8年度 札幌中学校「学ぶ力」育成プログラム


自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33003

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◇自分にはよいところがある。(86.4%) ◇人の役に立つ人間になりたいと思う。(94.7%) ◇わからないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。(85.6%) ◇人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。(89.6%) ◇振り返ったことを、次に生かそうとしている。(82.3%) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の意見を進んで発言しようとしている。(56.1%) ◆自分が必要とされていると感じる。(71.9%) ◆振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある。(76.0%) ◆端末を使った交流で気付いたことを自分の学習に取り入れようとしている。(71.9%)
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇自分の意見や考えがある一方で、それを他者と協議しより良い方向性へと向かうまでにはまだ至っていない。課題解決に向け、他者との話し合いの場や協働する場面をより多く設定したり、自主的な活動場面を設定することで相互承認を高めさせたい。そうすることで、生徒自身が達成感や成就感を味わうことができ、次へのステップに結びついていくと考える。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

思考力・判断力・表現力

	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<ul style="list-style-type: none"> ◇小中連携による9年間を通してた学習の縦断的な取組 ・各教科における3ステップの授業展開。 ①A「『何のために』を考える場」と「学びの見直しをもつ場」(見直し) ②A「個人で考える場」と「対話による思考の深化の場」(行動) ③R「振り返る場」(振り返り) を設けた学の展開。 ◇「総合的な学習の時間」での横断的な取組 ・生徒自らが「やってみたい」「してみたい」を実現できる課題探究的な学習と本物の経験 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「自主的な活動」・・・より良い学校づくりと地域社会づくりに向け、生徒自らが「やってみたい」「してみたい」ことを考え、積極的に学校内外の活動に参画していく。 「人間尊重の教育」 「プラスのまほう」Positive、Love、Unique、Smile について生徒会を中心に何できるのか、委員会活動、小学校の児童会 (ICTの活用)、地域との連携を含めながら、「札幌中未来会議」(仮名)を推進し、活動をしていく。 ⇒上記の課題の解決につなげる

〈本プログラムの実行に向けて〉

